情報活用能力系統表		ステップ１ （めやす：１・２年生）	ステップ２ （めやす：３・４年生）	ステップ３ （めやす：５・６年生）	ステップ４ （めやす：７～９年生（中学校））
学び スキル	**課題の設定**	身の回りの事象に関する課題を設定できる。	地域の事象に関する課題を設定できる。	社会の事象に関する課題を設定できる。	社会課題に関する課題を設定できる。
	収集	情報を収集する身近な方法を知り、実施できる。	情報を収集する複数の方法を知り、実施できる。	調査を設計し、情報を適切に収集・検証できる。	統計的な調査も含めて設計し、情報を効果的に収集・検証できる。
	整理・分析	絵や図、簡単な表やグラフを用いて情報をまとめることができる。 共通と相違、事柄の順序など、情報と情報の関係を捉えられる。 正しくない情報があることを知る。	正しい情報かどうか確かめようとする。 情報カードを使って、集めた情報の記録や整理ができる。 表やグラフなどを用いて情報を整理できる。 複数の情報から傾向、変化を捉え、共通点や相違点を見いだすことができる。 全体と中心など、情報と情報の関係を捉えられる。	複数の表やグラフを用いて整理できる。 情報が信頼できるものか確かめることができる。 得た情報について論理的に考察し、新たな意味を見いだせる。 原因と結果など情報と情報との関係を捉えられる。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係を捉えられる。 目的に応じて、複数の表やグラフを用いて情報を統計的に整理・分析することができる。 目的に応じて、収集した資料を多面的・多角的に考察し、新たな意味を見いだせる。
	まとめ・表現	複数の情報から、わかったことをまとめられる。 自分の考えを写真や絵、手書き入力等による文字で、表現できる。 紙芝居、絵本、絵カード、ペープサートなどを使って表現できる。	同一内容について２、３点以上の情報を比較したり、関係付けたりして、新たな意味を見いだせる。 自分の考えや意見を壁新聞やポスター、リーフレット、スライド等で相手を意識して表現できる。	情報を取捨選択し、スライドや文書作成、表計算ソフトなどの複数のソフトで相手や目的に応じて表現できる。 インタビューなどで聞いたことや見学・観察などの体験から得られた情報と、統計資料などから読みとったことを関連づけて報告文を書いたり、ポスターセッションなどをすることができる。	様々な相手や目的に応じて情報をまとめ、WEB等で適切且つ効果的に表現できる。
	振り返り・改善	情報活用を振り返り、感想をもつことができる。	情報活用を振り返り、改善点を見いだせる。	情報活用を振り返り、効果を見いだせる。	情報活動を振り返り、観点を決めて評価し、改善できる。
情報 モラル ・ 情報 セキュリティ	**情報の取り扱いに関する理解**	人の作った作品や情報を大切にすることや、その情報をむやみに他者に伝えてはいけないことを理解できる	自他の情報を発信、やり取りする場合の責任を理解できる。 他人が制作した情報を活用する際はURL等を含めた引用を明記する必要があることを知る。	著作権等の情報に関する権利と重要性について理解できる。	発信した情報等について情報社会に及ぼす影響を理解できる。
	情報セキュリティに関する理解	情報機器を使用する際の基本的なルールに基づき正しく使用できる。	パスワードを人に教えないなど、情報を守るための基本的な方法を知る。	セキュリティソフトやフィルタリングを適用させるなど、情報を守るための手段や方法を知り、使用できる。	セキュリティソフトやフィルタリングなど、情報セキュリティ確保のための対策を自ら確認し、実施できる。
	情報モラルなどに配慮しながら情報を活用する力	パスワードやIDを自分で適切に管理・使用できる。 ルールやマナーを守り、クラウドやインターネットの情報を閲覧できる。 インターネット上に正しくないものがあると理解できる。	自他の個人情報を教えたり、不審なサイトにアクセスしたり、不審なアプリケーションをダウンロードしたりすると危険があることをわかったうえで、インターネットを利用できる。 インターネット上にある正しくないものを見極めようとする。 SNSの便利さと危険について知る。	ルールやマナーを守り、チャットやクラウドなどを適切に利用し、他人とやり取りができる。 社会に広がっている情報・ニュース等が事実に基づいているか判断したり、正しい情報について調べたりすることができる。	生成AIの仕組み、利便性、リスク、留意点がわかる。 より良い回答を引きだすための生成AIとの対話の方法がわかる。 目的に応じてアプリやインターネット上のサービス等を選択して安全に利用できる。
	情報を適切に取扱いながら情報社会に参画使用とする態度	自他の大切さを理解できる。 情報や情報技術を使おうとする。	自他の情報の大切さを踏まえ、適切に行動しようとする。 情報や情報技術を、生活に生かそうとする。	情報に関する自他の権利があることを踏まえ、適切に行動しようとする。 情報や情報技術を、よりよい生活に生かそうとする。	情報に関する個人の権利と重要性を踏まえ、適切に行動しようとする。 社会は互いに法律やマナーを守ることで成り立っていることをふまえて、行動しようとしている。 情報や情報技術を、持続可能な社会づくりに生かそうとする。

情報活用能力系統表		ステップ１ （めやす：１・２年生）	ステップ２ （めやす：３・４年生）	ステップ３ （めやす：５・６年生）	ステップ４ （めやす：７～９年生（中学校））
プログラミング	問題解決の手順を考える力	手順を順序立てて説明できる。	手順を図解し、説明できる。	フローチャートなどにより表現できる。	アクティビティ図などにより表現できる。
	プログラミング的思考	コンピューターには明確な手順を命令する必要があることに気づく。	意図した簡単な動作を実現するために、順序を考えたり、くりかえしたりする命令の組み合わせを考えることができる。	意図した複雑な動作を実現するために、条件によって動きを変えたりする命令の組み合わせを考えることができる。	生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見いだして課題を設定し、プログラミング的思考等を発揮して解決策を構想したり、処理の流れを図などに表し思考等を通じて解決策を具体化できる。
	分解	動きはいくつかの小さな動きに分けられることに気づく。	取り組みやすいように小さな動きに分解できる。	複雑な動きを、取り組みやすいように小さな動きに分解できる。	計測、制御、双方向性のあるコンテンツの制作、ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングを行うために、必要な動きに分解できる。
	抽象化	コンピュータに命令するための記号があることに気づく。	コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる。	目的や意図に合わせ、必要な動きを見出し、コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる。	目的や意図に合わせ、必要な動きを見いだし、課題解決に必要な機能をプログラミング言語等を用いて表現することができる。
	組み合わせ	ものごとには順序のある場面があることに気づく。	意図した活動を実現するための命令の組み合わせを考えることができる。	意図した活動を実現するために、複数の命令を組み合わせてより効果的な組み合わせを考えることができる。	安全・適切なプログラムとなるように、複数の命令を組み合わせたり、他者と協働して粘り強く、より効果的なプログラムとなるよう評価、改善及び修正を行うことができる。
ICTの 基本的操作 スキル	入力	起動や終了、ログイン･ログアウト、写真撮影、文字のフリック入力又は手書き文字自動変換機能などの基本操作ができる。	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる（8文字程度/１分間）	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる（16文字程度/1分間）	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる（25文字程度/1分間）
	アプリケーション等の 使用・操作	標準仕様のWEBブラウザやカメラ機能など、基礎的なアプリケーションを操作できる。	標準仕様の文章作成、表計算、プレゼンテーション系アプリケーション、ノーコードのプログラミングソフトが操作できる。	目的に応じて様々なアプリケーションを選択し、操作できる。	複数のアプリケーションを関連づけて操作できる。
	検索	インターネット上の情報を閲覧することができる。	キーワード検索ができる。	AND、ORなどの論理演算子を用いた検索ができる。	目的に応じて適切に検索できる。
	保存	ファイルの呼び出しや保存ができる。	クラウドを用いて、ファイルの検索や共有ができる。	クラウドを用いて、ファイルやフォルダの管理ができる。	クラウドを用いて、規則性に従ったフォルダをつくったり、圧縮やパスワードによる暗号化などを用いた管理ができる。

箕面の授業の基本 ICT活用例	課題をつかむ	自力解決	学び合い	まとめ・ふりかえり
	～「なぜだろう？」と思わせる資料提示の工夫～	～気づきを促す・理解を深める・知識の定着・技能の習熟を図るためのICT活用～	～タブレット端末を用いて共有化～	～タブレット端末を用いて変容をふり返る～
	パワーポイント、デジタル教科書を使ってそのまま資料を提示するのではなく、資料の一部を隠すことで焦点化することができる。隠すことで資料を読み取る時間の確保、前時までの既習事項を活かした予想を持つことができる。	タブレット端末を用いて、自身でテキストや動画で表現や考えを記録したものや，教員が作成した動画やイラストなどを何度も見直すことにより,新たな表現や考えへの気づきを得ることが可能となる。自分自身の動きを視覚的・客観的に確認することで、何ができていて何ができていないのかを把握できるため，技能を向上させることにもつながる。	全体交流時に，子どもたちの考えを電子黒板に写して共有したり、タブレット端末を用いて、お互いの考えを視覚的に共有したりすることにより、グループ内や学級全体の議論を深め、課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能となる。	タブレット端末を用いて、授業のまとめとして、友だちと協力して導く際に全員が書いたまとめを共有し、そこからブラッシュアップされた結論をクラス全体の成果とすることも可能となる。また，学習問題に対する予想や考え，作品や演技などの成果物を記録しておくことで，単元全体の変容を視覚的・客観的に確認できるので，単元の学習でどんな力がついたかを振り返りやすくなる。